

令和4年度 調布市立調布学校 学校経営計画（学校長 梶山 剛史）

学校の教育目標	
◎自ら学び深く考えよう ○身体を鍛えたくましく生きよう ○礼儀正しく思いやりの心をもとう ○勤労を重んじ進んで奉仕しよう	
目指す学校像(ビジョン) 例) 学校像, 教員像, 児童・生徒像	
目指す学校像 『生徒のびのび、保護者安心、地域自慢、教職員いきいき』 生徒・教職員の笑顔が溢れ、また明日来たくなる学校 「生徒のびのび」 ①自分も他人も大切にする。②自ら考え、判断、行動する。③互いの個性を尊重し、仲間とともに磨き合う。 「保護者安心」 ①いじめ防止・アレルギー事故防止を徹底する。②家庭との連絡を密にする。③教育活動についての情報を適切に発信する。 「地域自慢」 ①地域の会合で、学校の情報を積極的に発信する。②学校行事等を通じて、地域の方を学校に招き入れる。 「教職員いきいき」 ①生徒一人一人を温かく見つめ、生徒の良い行いを認め・褒め・伸ばす。②教職員同士がお互いに磨き合い、高め合う。 ③報告・連絡・相談を適切に行い、一人で抱え込まず組織で生徒を育てる意識をもつ。	
ビジョンの設定理由 (本校の現状と課題)	現状：全体的には、生徒は落ち着いて学校生活を送っている。生徒の主体性も育ってきている。 課題：不登校生徒や不登校気味の生徒が多い。
中期的な経営目標	
① 人権尊重教育の推進と豊かな心の醸成 ② 確かな学力定着に向けた教育の推進 ③ 心身の健康を保持続けていく態度の育成 ④ 特別支援教育の推進 ⑤ 保護者・地域と連携した信頼される学校の推進 ⑥ 地域学校協働本部と連携した教育活動の充実	

調布市立学校における共通した領域 <短期的な経営目標>		
① 豊かな心(徳)	② 確かな学力(知)	③ 健やかな体(体)
(1) 取組目標 (具体的方策)	(1) 取組目標 (具体的方策)	(1) 取組目標 (具体的方策)
① 毎月いじめアンケートを実施する。	① タブレット端末等 ICT 機器を活用し、生徒の学習意欲を高める。	① 体育科の授業を柱に、運動についての意欲を高める。また、部活動を充実させる。
② 「命を大切にする」講演会を実施する。	② 校内研究を柱に、意図的・計画的に学び合いや振り返りを取り入れた授業を全教科で行う。	② 食物アレルギー研修を4月に行い職員の意識を高める。また、日々の確認を徹底する。
(2) 成果目標 (数値目標)	(2) 成果目標 (数値目標)	(2) 成果目標 (数値目標)
① 生徒アンケートで「いじめ防止の取り組みをしている」の肯定的評価を90%以上にする。	① 生徒アンケートで「意欲的に授業に取り組んでいる」の肯定的評価を80%以上にする。	① 生徒アンケートで「体力の向上を図り、心と体の健康の保持・増進に努めている」で肯定的評価を80%以上にする。
② 生徒アンケートで「命の大切さや社会ルールを私たちに考えさせようとしている」の肯定的評価を90%以上にする。	② 生徒アンケートで「主体的に考えるように努力している」の肯定的評価を80%以上にする。	② ヒヤリハット事例を含め、食物アレルギー事故を未然に防ぐ。
学校の特色を生かした領域 <短期的な経営目標>		
④ 特別支援教育	⑤ 保護者・地域との連携	⑥ 地域学校協働本部との連携
(1) 取組目標 (具体的方策)	(1) 取組目標 (具体的方策)	(1) 取組目標 (具体的方策)
① 特別支援教育部を中心に、特別支援教育の充実を図るとともに、魅力ある学校づくりに取り組む。	① 地域行事等に積極的に参加し、互いの顔が見える交流・関係づくりを行う。	① 各種検定の試験監督等ボランティアの協力と幅広い検定機会の創出に向けての準備(令和5年度より運用予定)
② ステップルームや取り出し授業を活用し、生徒一人一人に合った指導を行う。	② ホームページ、学校・学年だより等、広報活動の充実を図る。	② CS準備に向けての情報交換
(2) 成果目標 (数値目標)	(2) 成果目標 (数値目標)	(2) 成果目標 (数値目標)
① 魅力ある学校づくりアンケートで、すべての項目で60%以上にする。	① 部活動の地域行事参加や教員の地域行事参加を感染状況に応じて、積極的に行う。	① 令和5年2月までに計画を立てる。
② 30日以上長期欠席者数を昨年度より減らす。	② 学校だよりは毎月、学年だよりは定期発行する。ホームページは適宜迅速に更新する。	② 学校関係者評価委員会等を活用し、年間3回情報交換と準備を行う。

人材育成・組織運営
○特別支援教育部が中心となり、不登校対策・特別支援教育の充実にあたる。 ○分掌・学年内での役割・仕事分担の明確化を進め、組織の再編を視野に、教職員が得意分野で力を発揮でき、力を伸ばせるように配置する。 ○主幹教諭及び教務主任からなる経営会議(喫緊の課題解決)を通して、学校の組織的な運営と主幹教諭の管理職としての資質向上を図る。 ○主任教諭に自覚をもたせ、若手教員の育成に責任をもってあたらせる。